

# Argentina

アルヘンティーナ

No. 59



春満開、ハカランダー パレルモ公園 ブエノスアイレス：2011/11/12撮影

## 社団法人 日本アルゼンチン協会 会報

2012年1月

アルゼンチン共和国から、日本人3名叙勲.....	2
アルゼンチン国からの叙勲に際して.....	2
ARGENTINA Y JAPÓN UN SOLO CORAZÓN —ア国から仙台へ心のおくりもの.....	3
日本から約2万キロ、ウルグアイに来て —スペイン語受講生海外留学奮戦記.....	6
なぜタンゴは日本人にもてるのか.....	8
フェルナンデス政権、2期目へ —アルゼンチン政治経済短信.....	9
Resumen en castellano.....	10
協会の活動案内	
～3月16日（金）協会主催第17回 「タンゴ音楽の集い」開催.....	11
～平成23年度（平成23年4月～平成24年3月） 通常総会及び懇親会.....	11

## 協会の活動報告

～9月16日 ロドリゲス一等書記官夫妻 帰国お別れ会.....	12
～10月21日 第16回「タンゴ音楽の集い」 .....	12
～10月29・30日 糸巻き蓄音器（SP盤レコード） でタンゴ・コンサート.....	12
～11月6日 第49回アルゼンチン国杯競馬... 13	
～11月16日 アルゼンチン大使館・当協会 懇親夕食会.....	13
～11月28日 大来財団設立・メルコスール発足 20周年記念パーティー.....	14
～12月17日 2011年度スペイン語講座合同 研修・懇親会（Foro-Fiesta）.....	14
会員の活動報告 その他関連ニュース.....	15

# アルゼンチン共和国から、日本人3名が叙勲

この度、アルゼンチン共和国から、次の3氏が叙勲されることが決まりました。

佐々木 元 (ささき はじめ) 氏  
日本電気 (NEC Corp.) 元会長

勝田 富雄 (かつた とみお) 氏  
アルゼンチン トヨタ 元社長

佐々木 幹夫 (ささき みきお) 氏  
三菱商事 元会長

日亜経済合同委員会日本側会長  
アルゼンチン共和国の発展、社会貢献、芸術・文化等に於いて両国相互理解と友好関係増進に貢献された方に、大統領名のもと贈られる栄えある五月勲章功労賞 (Orden de Mayo) であり、日本人の叙勲は、10数

年ぶりのうれしいニュースであります。(日亜修好100周年—1998年、平成10年以來のことです)

この度の受賞に対し、心からお喜び申し上げます。今後益々両国間の友好交流が深まることを祈念申し上げます。

勝田氏に対しましては、昨年10月5日、在日アルゼンチン大使館にて、大勢の関係者が出席のもと(当協会木島理事長出席)、勲章授与式が執り行われ、デジャン大使から同氏に授与されました。

佐々木 元、佐々木幹夫両氏への勲章授与式は、今春(3~4月)の吉日に、夫々行われるとのことあります。

## アルゼンチン共和国政府からの叙勲に際して

勝田 富雄

この度、アルゼンチン政府より“五月勲章功労賞”(Orden de Mayo al Merito en el grado de comendador) という栄えある勲章を受章致しました。

先般10月5日東京にて、在日アルゼンチン大使館に、当協会の木島輝夫理事長、幣方会社関係者等、約50名のご出席を頂きまして、ラウル・デジャン (Raul Dejean) アルゼンチン共和国大使より受賞致しました。

この勲章は、アルゼンチン国の発展、社会貢献、文化、相互理解を深めた人達に大統領名で与えられる勲章で、トヨタ時代、及び現職での約17年間に渡る亜国関係業務や活動が、アルゼンチン国の自動車産業の発展や両国交流に、微力ながらも貢献できた事が評価され、受賞したものと理解しております。

勿論、私一人の力で受賞したのではなく、関係者の皆様のご支援、ご協力があったの結果であり、この場をお借りし感謝申し上げます。



授賞式で〜ラウル・デジャン大使ご夫妻と筆者夫妻



2004年、故キルチネル大統領(当時現職大統領)がトヨタ・サラテ工場を視察。大統領を案内する筆者

私が始めてアルゼンチンの地を業務で踏んだのは、1994年でありました。トヨタと現地事業家とのトヨタ車の生産、販売の合弁事業を検討する調査の為でした。

1995年4月にアルゼンチンに赴任し、工場建設準備を開始し、97年の3月にアルゼンチンで初めてのトヨタ車、ハイラックス1号車をラインオフさせ、当時のメネムアルゼンチン共和国大統領、荒船清彦駐亜特命全権大使、豊田章一郎トヨタ会長他の列席を頂き、ZARATE工場の開所式が盛大に行われました。

アルゼンチンへの工場建設、進出を決めた第一の要因としては、ブラジルへの輸出の実現性がありました。調査・検討時、アルゼンチン国よりブラジルへは、特別輸出枠1万台がありました。亜国製車は、価格、品質、モデルなどで課題があり、アルゼンチンからは、ほとんど輸出されていませんでした。

その他の大きな要因は、現地パートナーが居たこと、良好な労使関係構築が期待できた事でした。前者につきましては、実際には“お客様第一”を初めとするトヨタの基本的な考え方等、隔たりが大きかった為、工場稼働前に合弁は解消されました（結果的には、トヨタ独自での運営でスタート出来、非常に良かった）。

後者の労使関係に関しましては、組合のトップ3名を日本に招聘し、トヨタ組合幹部との懇談や、工場見学、京都、東京見学などを通じて、日本の（トヨタの）モノ造り、文化を理解して頂く等、相互信頼に力を注いだ結果、労使一体となった日本並みのモノ造りが出来ました。その結果ブラジルへの輸出課題でありました品質、価格などの問題が解消され、生産台数の50%以上を輸出できる結果となりました。

2005年に開催された愛知万博への出展に関しましては、中南米各国は不況の中で、単独館での展示は否定的でした。アルゼンチン政府（駐日亜国大使）や愛知万博事務局からの強い協力要請を受け、中南米で唯一の単独展示館を準備すべく、在亜日本商工会議所会頭の立場で資金集めや相互理解に努めました。アルゼンチン館で毎日催されたタンゴショウや特産品の展示などは非常に評判が良く、アルゼンチンを理解し、好きになって頂く、良い出展になったと聞いております。

ブラジルの発展や、債務不履行の陰に隠れてしまい、一般的には最近のアルゼンチンの発展が日本では顕著に報道されておきませんが、2011年の自動車新車販売は80万台を超え、100万台の市場が見えてきたことや、ブラジル同様に、鉱物資源や農産物も豊富で、地の不利を除けばアセアン以上に将来性が見える国である事など、日本では一般的に理解、評価されていないのは残念であります。

日亜修好100周年（1998年、平成10年）の時に数名の方が叙勲されてからは、ここ十数年間、叙勲者がいなかったと聞き（本年は3名）、日亜間の交流が希薄ではと少々感じさせられました。

従いまして、日本アルゼンチン協会の活動や存在は重要であり、価値があるものと思います。

個人的にも、日亜間発展に、今後も、お役に立てましたら幸いです。

（かつた とみお：当協会理事、ビューテック（株）専務執行役員、元亜国トヨタ社長）



ARGENTINA Y JAPÓN  
UN SOLO CORAZÓN

## アルゼンチンと日本、心は一つ

—アルゼンチンから日本へ、“心”のおくりもの

木村 敏夫

「ARGENTINA Y JAPÓN UN SOLO CORAZÓN」をスローガンに6月30日まで2週間のイベントで、13,500羽の折り鶴と1,780短冊メッセージをアルゼンチンから東北の被災地へ届けることができました。

また在亜日本人学校の子もたちが「絆」と付し、日亜の子もたちがメッセージを寄せた大日章旗も届けさせていただきました。

7月31日、仙台Yurtecスタジアムで思わず観客から「ARGENTINA! ARGENTINA!」の大合唱が沸き起こる感動的セレモニーを経て、208万人が訪れた仙台七夕まつりへの出展を8月6日無事終えました。これに先立ち前述の如くブエノスアイレスでは、5つのショッピングモールにスタンドを構え、一般の人たちからの



Yurtecスタジアムでデジャン駐日大使と筆者

(C)JLEAGUE PHOTO

温かいメッセージと即席で習った折り鶴を折ってもらい、また小・中学現地校5校へ出向き日本文化の紹介と同時に、折り鶴作成を子供たちが積極的に協力してくれたのは本当に嬉しいことでした。

正直なところイベント企画当初は千羽鶴も危ういのではと思ったりしました。この催しを始めるまで、また始まってからも大変多くの人たちのご協力があり、大変意義あるイベントになりました。途中、挫折しかけたことがありました。日本のCopa America参加辞退の報には、反感からイベントが逆効果になるのではと中止の声が出ました。そのとき「それは逆だと思わね。大会でプレーできない選手たちと、その活躍を見ることが出来なくなった日本人をアルヘンティーノはかわいそうと感じるはず。やるべきです。」と背中を押してくれたのが、イシカワエレクトロニカの石川リリアーナさんとノルベルトさんご夫妻です。ここでまた、アルゼンチンの奥の深さを論され、前に進むことができました。また7月1日のCopa Americaの開会式では大会組織委員会の計らいで、参加はできなかったものの日本と中南米の変わらぬ連帯を現すため、日章旗を掲げた日系人若者たちの行進がラプラタスタジアム内を一周し大きな拍手で迎えられました。



DOTで鶴の折り方をレクチャー

在亜日本人学校では山口校長先生、鈴木先生はじめ子どもたち、父兄の方々、先生たちみなさんから暖かいご協力、応援があり6月29日には亜国の子どもたちから日本の子どもたちへの折り鶴伝達式を行いました。また本戦では実現できなかった日亜戦を子どもたちが代替開催し、手に汗握る熱戦で日本が終了間際に1点をかえす見所ある試合でした。

NHKも注目し、数時間前Ezeiza空港到着直後のCopa America取材クルーが日本人学校に派遣されました。この模様は7月1日のBizスポで伝達式や日亜戦の熱戦が3分間放映され、みなさんの良い思い出になったと思います。ただひとつ失敗はNHKの取材を事前に積極的に伝えなかったため、当日カメラに映ることになったお母様方から、聞いてたら綺麗にしてきたのにとお叱りを受けました。



得点にハイタッチ、日本チーム



初めての折鶴に歓喜、この少女は50羽以上折ってくれました。

7月上旬折り鶴、短冊、「絆」日章旗を日本に送り、日本サッカー協会田嶋幸三副会長及びJリーグからの申し出もあり、仙台Yurtecスタジアムでの対柏戦の試合前セレモニーとして贈呈式を行いました。式開始のアナウンス「アルゼンチンからの贈り物が届いています」と伝えられると大きく暖かい拍手で迎えられました。ラウル・デジャン駐日アルゼンチン大使から、三浦秀一宮城県副知事、稲葉信義仙台市副知事及び白幡洋一ベガルタ仙台社長に折鶴と短冊メッセージがアルゼンチンの人たちからの心とともに手渡されました。この瞬間スタンドから“ARGENTINA! ARGENTINA!”の大合唱がこだまし、大使は驚かれるとともに日本とアルゼンチンの友好の架け橋ができたことを喜ばれました。ピッチから下がる折り、デジャン大使がしみじみと私に一言“MOTIVADO”と発した言葉は印象的で感動的であり、ここまでやって来て本

当によかったと充実感に包まれた瞬間でした。

この後208万人が訪れた8月6日~8日の仙台七夕まつりに折鶴を飾ることができました。

また田嶋副会長のたつての希望で、ナショナルトレーニングセンターのあるJヴィレッジにも千羽鶴を贈呈しました。ここはかつて日韓ワールドカップのアルゼンチンセレクション（アルゼンチン・チーム）の合宿地になったところで、AFA関係者からは懐かしみながらも大震災を受けた地として心を痛める声を数多く聞きました。現在は福島第一原発への自衛隊及び作業関係者の最前線基地（20KM）となっています。

日本でのイベントでは、元駐アルゼンチン大使、木島輝夫日本アルゼンチン協会理事長と、元NEC亜国代表、寺本安久同協会理事にご尽力いただきました。デジャン駐日大使のYurtecスタジアム出席は二転三転、お二人のご助力なくしては感動的セレモニーも実現できませんでした。

#### <フワイの子供たちを招待>

一方、コパ・アメリカで日本チームの合宿地となることが決まっていたフワイ州は歓迎ムードで当初かなり盛り上がっていました。州政府ホームページが日本語になったり、レストランに日本語メニューができたりもしました。不参加の決定に際し非常に残念がる声が多く出ていました。



スタンドで全員集合

そういう中で、キヤノンは100名の子供たちをCopa America2試合に招待しました。Barionuevo州知事にも感謝の言葉をいただき知事の推薦で、Olaroz(チリ国境標高4500メートル)、La Quiaca(ボリビア国境3500メートル)の小学生たちを招待しました。一日かけ州都サンサルバドル・デ・フワイに到着し試合を観戦してもらいました。多くの子供たちにとって初めての州都訪問でもあったようです。いい修学旅行にもなったことと思います。

ちなみに日本選手団が合宿地としてフワイを選んだ理由は、標高2000メートルあたりで栽培される高原野菜の美味しさ故と聞きました。候補地選びに来た日

本サッカー協会関係者は、美味に惚れ込み合宿地となりました。皆さんもご賞味を!



470KMの行程途中Olaroz塩湖にて記念撮影

#### <セニーサ(火山灰)・ボランティア>

チリ火山の噴煙影響は未だに続いていると聞いています。Copa Americaの開催直前から本格的になり開催も危ういとの声もありました。私も最後の最後に決勝が終わって二日後、NYに帰るためEzeiza空港でチェックイン直前になってフライトがキャンセルになりました。(わたしとしては、ブエノスアイレスにもう一日居れてハッピーでしたが)

テレビではセニーサに埋もれたバリローチェ周辺で、降り積もったセニーサを取り除くボランティアの人たちが大勢参加しているのですが備品・道具が足りない、と報道されました。弊社から軍手、長靴、懐中電灯、電池など、ささやかな寄付をいたしました。東日本大震災への一方通行のお願いでなく、少しは恩返しになればとの思いです。

#### <この人がいたからこそ>

最後になりますが、連帯をテーマにイベントを始めたきっかけをお話します。3月終わり頃、久しぶりに訪れたブエノスアイレスで突然見知らぬ人たちに「おまえの家族は大丈夫か、家は?」と声を掛けられ、これが親身に何人もからでした。アルヘンティーノの温かさに触れ、この心を何かの方法で伝えられないかと考え続けました。一週間経ち離亜前日、髪をシャンプーしている時「アルヘンティーノに折り鶴を折ってもらっては!？」と考えたのが事の始まりです。

これ以降、駐亜石田大使、山崎参事官(当時)をはじめ、本当に多くの方々のご協力でイベントを意味あるものにしていただき、多くの感動を頂きました。

もうおひとり大恩人がいます。トーシンの北山朝徳社長からは、シャンプーひらめき以降ずっと貴重なアドバイスをもらいました。折り鶴と仙台七夕まつりとの結びつけ、フワイ、セニーサ、日本サッカー協会/Jリーグ、日本への発送前に折り鶴を千羽鶴にする作業も北山氏が率先して始め、多くのトーシン社員の人たちが加わりました。私も教わりながら釣り糸に鶴を通すのですが、これが大変でした。

「何所のどいつがこんなイベントを考え始めたんだ!!!」とぶつぶつ言いながら・言われながらの作業です。程なく自分たちだけの作業は諦め、アルゼンチン人アルバイト5名を急遽雇い、2日間掛けて13,500羽の千羽鶴が出来上がり仙台へ向け発送しました。中にはグルージャ（鶴）もあればパト（あひる）やガジーナ（めんどり）もありますが、立派な心のこもったアルヘンティーノの千羽鶴を届けることができました。

アルゼンチンの人たち、在亜の日本に所縁のある方々の大きな力で前進できました。最初はただ日本に渡すだけ、と思っていたものが盛り上がりとともに日本での動きが大きくなり多くの皆さんに認知されるイベントになり、たくさんの感動をいただき個人的にも言葉に表せないほど意義深いものになりました。

皆さん、お力添えと感動をありがとうございました。

(きむら としお:キヤノンUSA  
元キヤノン・アルゼンチン駐在)



## 日本から約2万キロ、ウルグアイに来て

### ～当協会スペイン語受講生の海外留学奮戦記

スペイン語クラスの皆様へ、いかがお過ごしでしょうか。

ウルグアイに来て3ヶ月経ちました。当地は長い冬を終えようやく夏が到来し、モンテビデオの生活が楽しくなって参りました。ビーチに沢山の人が繰り出し、太陽を楽しんでいます。昼寝、マテを片手にお喋り、ビーチバレーやサッカー等、皆思い思いに初夏を楽しんでいます。



モンテビデオのビーチ

人口150万人の都市であるモンテビデオは、街の規模が日本の地方都市並みであり、正直言って田舎なのですが、一方で首都であるため、静かに生活ができ、かつ必要なものが揃う便利さを兼ね備えています。また南米の中では治安の良い都市と言われ、静かに生活をするにはモンテビデオが合っているかと思います。

ウルグアイの良いところは、小国である為、人が素朴で親切である事です。助けを求めたら、皆さんおせっかいなくらいに協力してくれます。逆にウルグアイの

### 当協会スペイン語講座元受講生

難しい所は、異人種、特にアジア人が殆ど居ないため、不遠慮に珍しがられる事です。また時間と約束事にルーズなこと、パーティは1時間遅れに開始、友人との約束ならば、雨が降ったらキャンセルです。

スペイン語の勉強は語学学校で少しずつしております。11月にはDELEのB2を受験しました。B2は「独立してスペイン語でコミュニケーションできるレベル」とされているのですが、実生活でコミュニケーションはなかなか難しく、日々奮闘しております。今学習している学校は、規模は小さいのですがその分アットホームな雰囲気であり、学習の習熟度だけではなく、生徒がウルグアイでの生活を楽しめているかにも気を配ってくれます。お陰で友達も出来、パーティや夜遊び、サッカーなどを一緒に楽しんでいます。



学校の友達とサッカー

学習面に関しては、学習コーディネーターが生徒のスペイン語の習熟度をしっかりと把握してくれます。特にテキストのレベルと実際の話せるレベルが食い違っていると、すぐ指摘を受け、改善案の検討に入ります。私も途中で指摘されました。

日本人の特徴としては文法の練習問題をさせる点数が良いのですが、ボキャブラリーが少ない事と、流暢に話せない事、スペイン語を聞き取り理解する事が難しいとされています。私もまさにこのパターン通りでした。

解決策として、毎日、新聞等を読み、スペイン語を1時間ほど聞き、ホストファミリー等と話す事を提案されました。それに加えて私の場合は、学校での通常クラスの受講を一旦止め、個人クラスを取って会話の強化を集中的に行いました。1ヶ月取り組んだ結果、成果がしっかりと現れ、日常生活や旅行でのウルグアイ人とのやり取りがスムーズにできるようになりました。

外国でスペイン語を学習していると、フランス語やポルトガル語など似通った言葉を母国語とする生徒との学習スピードの違いに落胆する事が多々あります。スペイン語は日本語との共通点が何一つ無く、日本人にとってスペイン語学習は他の生徒より倍以上時間がかかるのです。ただ、残念ながら語学学習に近道は無く、ボキャブラリーを地道に増やし、文法を正しく理解し、そしてひたすら話す/聞くの練習、これに尽きました。ただ日本人には地道に勉強を続けられる勤勉さと難しい文法を理解できる論理的思考が備わっていると思いますので、彼らより高いレベルで理解する事は可能です。そうしてスペイン語をそれなりに身につけると、外国人やウルグアイ人から共通点の無い言語を身につけてすごい!と褒めてもらえるので、ちょっとは努力が報われたかなと思っています。



W杯予選、ウルグアイ vs チリ戦  
エスタディオ・センテナリオ（1930年第1回W杯が開催された由緒あるスタジアム）で観戦

勿論、スペイン語の基礎はアルゼンチン協会の教室で習いましたので、ウルグアイに到着してから学習を速める点で役立ちました。マリアナ先生、カルメン先生からリオプラテンセのスペイン語を学んだことは、ウルグアイに来て「習っていたスペイン語と違う」という戸惑いが無く良かったです。（スペインのスペイン語を習ってウルグアイ入りした生徒は若干異なることに戸惑いを持たれたようです）

さて、そろそろクリスマスも近づき、1月のバカンスシーズン、2月のカーニバルとウルグアイで一番楽しいシーズンが近づいて参りました。

こちらでの生活を精一杯楽しみたいと思います。日本は寒いとは存じますが、皆様もお身体に気をつけてお過ごし下さい。

一女性スペイン語元受講生  
（ご本人の希望で匿名とさせていただきます。）

追記:当協会スペイン語クラスの前受講生からの「ウルグアイ便り」です。

ご本人は、かつてブエノスアイレスに旅行し、アルゼンチンが気に入り好きになりました。帰国後早速「アルゼンチン人によるアルゼンチンのスペイン語」を教える当協会の教室を探し当て、当協会の門を叩いたとのこと。

今回南米、ウルグアイに赴いて、「発音その他」に特に戸惑いは無く現地に溶け込むことが出来たようです。スペイン語を話す国は沢山ありますが、日本語も地域によりそのニュアンスを異にすると同じように、各国の歴史、文化、生活に根差した夫々のスペイン語があります。

16世紀のスペイン植民地時代は、ラプラタ河流域はラ・プラタ領として、アルゼンチン、ウルグアイ、パラグアイは同一の領土であり、特にラプラタ河流域のアルゼンチン、ウルグアイの二国の地域はリオプラテンセ（Rioplatense）と言われます。

リオプラテンセの先生による当協会のスペイン語講座は、当スペイン語講習会の一つの特徴であると意を強くした次第です。

（藤村 登一・ふじむら のぼる：  
実用スペイン語講習会担当 当協会理事）

# なぜタンゴは日本人にもてるのか

島崎 長次郎

タンゴは19世紀の末ごろ、アルゼンチンの港町ブエノスアイレスの下町、船着場“ボカ”の周辺で生れたとされる。地球の真裏に当たるそんな遠い国の音楽を、日本人はなぜか昔からことのほか愛することでよく知られている。アルゼンチンから楽団が来るようになったのは戦後の昭和29年からであるが、それ以降、毎年続々とさまざまな楽団や踊り手が来日するたびに、それを熱狂的に迎え、熱いエールを送るのが日本人なのだ。アルゼンチン・タンゴの弟分になるヨーロッパ生まれのコンチネンタル・タンゴも例外でなく、来日が決まるとチケットはたちまちにしてソールド・アウトとなってしまう。また、レコード鑑賞をメインにした愛好団体にいたっては全国各地に存在し、いずれもがその魅力に陶酔し感動を分け合っている。まさにこれは第2のタンゴ愛好国以外のなにものでもない。

こういった現象は一体どこからくるのだろうか。それはタンゴが内包しているセンチミエント（感情、情趣、心情）、つきつめるとそこに漂う深々とした<哀愁>にそれを解くカギがあるといえよう。つまり曲調は短音階で構成されたものが多く、そこに息づく悲しみや、胸を抉るような慟哭の旋律はそのまま日本人の琴線を揺さぶってやまないのだ。

振り返ってみると、私たち日本人は古来、芝居や浄瑠璃など悲劇を題材に、紅涙を絞ることを好む傾向があったのだが、西洋音楽が入ってきた明治の末期ごろから音楽にもこの傾向が顕著になってきた。幼い頃の母の背中で聴いた子守唄がそもそもだし、耳に馴染んだ「荒城の月」(明34)をはじめ、「城ヶ島の雨」(大2)「宵待草」(大7)「月の砂漠」(大12)「花嫁人形」(大12)といった童謡や抒情の名曲に、哀切味あふれる短音階で書かれたものが多い。さらに大正末期から昭和にかけて確立された流行歌の世界にこの傾向は一段と色濃くなって引き継がれ、中山晋平(船頭小唄、他)を始祖として、古賀政男(影を慕いて、他)、服部良一(別れのブルース、他)などの手によってこの路線は大衆の芸術に作り上げられたのだが、凶作や不況に翻弄された日本の民衆が抱える、暗くうめくような哀愁の情念は、新天地を求めて故郷を後にアルゼンチンに渡ってきた人々が、苦難と絶望と戦う中で内包してきた“望郷の叫び”=タンゴと、どこか深いところで共鳴し合うのだ。

タンゴがヨーロッパ経由でわが国に入ってきたのは昭和の初期だった。この魅惑の音楽にインスパイアされ、その明確なリズムに乗せて書かれた和製タンゴの逸品も相当数に上る。昭和5年の「麗人の唄」(堀内敬三)を筆頭に、同6年の「日本橋から」(古賀政男)、同8年の「タンゴ・ローザ」(紙恭輔)、同9年の「並木の雨」(原野為二)、同10年の「雨に咲く花」(池田不二男)、同12年の「マロニエの木陰」(細川潤一作)、「泪のタンゴ」(服部良一作)、同14年の「鈴蘭物語」(戦後「夢去りぬ」に改題) (服部良一)、同15年の「春よいづこ」(古賀政男)などが続き、戦後は昭和22年の「夜のプラットフォーム」「黒いパイプ」(服部良一)、「誰か夢なき」(清水保雄)にはじまり、同24年の「別れのタンゴ」(万城目正)、同25年の「赤い靴のタンゴ」(古賀政男)、そして同26年の「上海帰りのリル」(渡久地政信)へと連なり、わが国のタンゴの大衆化に貢献し、確固とした根を張った。

タンゴはこうして日本人の心に定着し、アルゼンチンとは切っても切り離せない強い絆で結ばれる結果になったが、この関係はさらに今後も大きく発展していくことであろう。



しまさき ちゅうじろう  
日本タンゴ・アカデミー会長





# フェルナンデス政権2期目へ

—亜国政治経済短信—

荒尾 保一

## 1. 大統領選挙

2011年10月23日、フェルナンデス大統領の4年の任期が満了することに伴う次期大統領選挙が実施された。フェルナンデス大統領のほか、アルフォンシン急進党党首、ドゥアルデ元大統領など7名が立候補したが、フェルナンデス大統領が54,11%という高い支持率を得て、決選投票をまたず、当選を果たした。この高い支持率は、かつてペロン大統領が64%の支持を得た時以来の高支持率であった。

このような高い支持が得られたのは、世界が経済停滞の状況にあるなかで、最近のアルゼンチン経済が高い経済成長を示していることが大きな要因であると考えられるが、最も大きな理由としては、2010年に夫のキルチネル前大統領が死去し、その同情票が集まったことがあげられる。選挙期間中、フェルナンデス大統領は常に喪服を纏って遊説し、更にエビータを連想させる行動をしたと伝えられる。

大統領選挙の結果は、第2位ビネル候補（革新派拡大戦線）16,80%、第3位アルフォンシン候補（社会開発のための連合）11,14%、第4位ロドリゲス・サア候補（連邦戦線）7,96%、ドゥアルデ候補（民衆戦線）5,86%、アルタミラ候補（左派戦線）2,30%、カリオ候補（市民連合）1,82%であった。

今回の選挙から、新たに制定された政治改革法が適用され、8月に予備選挙が実施された。この予備選挙は、有権者全員に投票義務があり、得票率が3%以下の候補は立候補が認められないという制度であるが、この予備選挙でフェルナンデス候補は52%という高い支持率を得て、本選挙での当選が確実視されていた。

## 2. 議会、知事選挙

大統領選挙と同時期に行われた上下両院の議員選挙及び一部の州の知事選挙で、ペロン党キルチネル派の候補が圧勝した。

即ち、上院では総議席72の内24議席、下院では257議席のうち130議席が改選されたが、与党「勝利のための戦線」及びその他のキルチネル派が上院では37議席から38議席へ、下院では112議席から131議席へ議席数を拡大し、上下両院とも、与党が過半数を占めることとなった。

他方、ブエノスアイレス州などの9つの州で知事選

挙が行われたが、このすべての州でキルチネル派の候補が50%を上回る高支持率で当選した。

選挙後のフェルナンデス大統領の勝利宣言において、同大統領は、この勝利をもたらした故キルチネル大統領に感謝すると述べるとともに、社会全体がこの選挙で表明された国民の意思を尊重し、国民が選んだ者に協力することが必要であると述べた。

## 3. 大統領宣誓と新内閣

12月10日、フェルナンデス大統領は、議会において宣誓を行い、2期目の大統領に就任した。任期は、2015年12月10日までの4年間である。また、アマド・ブドウ前経済相が副大統領に就任した。



ブドウ副大統領と共に



家族と共に

この宣誓式には、ロボ（ホンジュラス）、ムヒカ（ウルグアイ）、ルセフ（ブラジル）、モラレス（ボリビア）、ルゴ（パラグアイ）、ピネラ（チリ）、コロン（グアテマラ）の各大統領が出席したほか、米国、中国など各国の代表が出席した。日本からは、菅直人前首相が出席した。菅前首相は、同時期にうるま園で開催されていた在亜沖縄県人連合会主催の第9回沖縄祭りに出席し、大歓迎を受けたとのことである。

大統領就任式に引き続き、建国200周年記念館において新内閣の閣僚の就任式が行われた。閣僚は、Abal Medina首相（新）、Florencio Randazzo内相、Hector Timerman外相、Hernan Lorenzino経済相（新）、Norberto Yahuar農相（新）、Arturo Puricelli国防相、Debora Giorgi産業相、Enrique Meyer観光相、Julio De Vido企画相、Julio Alak法務人権相、Nilda Garre安全相、Carlos Tomada労働相、Alicia Kirchner社会发展相、Juan Luis Manzur保健相、Alberto Sileoni教育相、Lino Baranao科学技術相の16名である。

フェルナンデス大統領は、就任の演説の中で、過去4年間の政策の効果を強調し、さらに今後の経済成長を確保するため、労働組合の自重を求めるとともに、銀行の影響力の確保を要請した。また、経済省に、従来の内国商業庁と外国商業庁を統合した組織を作り、その長官にギジェルモ モレノ長官を任命すると発表した。

また、世界の金融危機に対応するため、南米共同市場統合の重要性を強調した。

## 4. 経済の動き

アルゼンチンの第2四半期（4～7月）の実質GDPの成長率は、前年同期比9,1%増、前期比2,5%増と高

い成長を記録し、9期連続で前期比の伸びがプラスとなった。民間消費が引き続き高い伸び率で成長し、設備投資や建設部門が大幅な伸びを示し、政府消費も高い伸びとなった。また、同期の国際収支は、貿易収支が前年同期比1,212百万ドル減、資本収支が同2,094百万ドル増であった。

政府発表の消費者物価は、9月は前年同月比9,9%の上昇、10月は9,7%の上昇であったが、民間調査はこれを大きく上回っている。消費及び生産は、引き続き好調であり、市場見通しでは、2011年通期で7,5%の伸び、2012年は4,9%の伸びを予想している。

なお、為替レートは、12月で、1米ドル=4,271ペソであるが、非公式市場では、ペソ安が進んでいるとのことである。

## 5. CELACの発足

12月2日、ベネズエラのカラカスで、中南米・カリブ海地域33カ国の首脳会議が開かれ、「中南米カリブ海諸国共同体（CELAC）」が発足した。米国主導の米州機構（OAS）に対抗した組織で、OASから米国とカナダを排除している。

また、この首脳会談の際、フェルナンデス大統領とディルマ ルセフ伯大統領は、カラカスで会談し、アルゼンチンとブラジルが2国間協定を結び、相互に最優先国として協力する仕組みを確立することで合意した。詳細は、今後協議される。

（あらお やすいち：当協会常務理事）



## Resumen en castellano

por Irene Gashu

### Tres condecorados (p. 2)

La República Argentina ha otorgado la condecoración "Orden de Mayo" a tres ciudadanos japoneses: los Sres. Hajime Sasaki, Tomio Katsuta y Mikio Sasaki. La "Orden de Mayo" es una condecoración que otorga la República Argentina a quienes han contribuido al progreso, al bienestar social y a la cultura de Argentina y han promovido las relaciones amistosas entre los dos países.

### Recibí una condecoración (p. 2)

por Tomio Katsuta

El 5 de octubre pasado, tuve el gran honor de recibir la Orden de Mayo al Mérito en el grado de comendador. Visité Argentina por primera vez en 1994. En 1997, inauguramos una fábrica de automóviles Toyota en Zárate, Provincia de Buenos Aires. En 2011, se vendieron más de 800.000 automóviles en Argentina. Es un mercado importante para la industria automotriz. Es un país rico en minerales y productos agrícolas. Tiene un futuro promisorio.

### Argentina y Japón: un solo corazón (p. 3)

por Toshio Kimura

En 2 semanas reunimos 13.500 grullas de origami y 1.780 mensajes para enviar a los damnificados por el desastre natural en Tohoku. Canon invitó a 100 niños de Olaroz y La Quiaca a presenciar 2 partidos de la Copa América en San Salvador de Jujuy. Canon también donó guantes, botas, linternas y pilas para asistir a los voluntarios que están trabajando en la región de Bariloche para barrer las cenizas del volcán chileno. Quisiera agradecer a todos los que ayudaron a hacer realidad estos eventos.

### Uruguay, a 20.000 km de Japón (p. 6)

Soy una ex alumna del curso de español de la Asociación. Hace 3 meses que llegué a Montevideo, Uruguay. En noviembre, rendí el B2 de DELE. Gracias a que en la Asociación me enseñaron el español rioplatense, no tuve dificultades en entender el idioma hablado por los uruguayos.

### Por qué a los japoneses les gusta el tango (p. 8)

por Chojiro Shimazaki

El tango contiene un sentimiento de melancolía y tristeza que atrae a los japoneses. Hacia 1925, ya se nota una inclinación hacia las canciones tristes y melancólicas. El tango es como un grito de esperanza de los inmigrantes que dejaron atrás su país natal en busca de un futuro mejor. Hay muchas melodías japonesas que encontraron su inspiración en el tango.

### El segundo período de Cristina Fernández (p. 9)

por Yasuichi Arao

La Presidenta Cristina Fernández ganó las elecciones presidenciales del 23 de octubre de 2011, con el 54,11 % de los votos. En las elecciones de diputados, senadores, intendente y gobernadores, el ala kirchnerista del partido peronista también obtuvo una gran victoria. El 2 de diciembre, se realizó en Caracas la cumbre de 33 países latinoamericanos y caribeños, en la que la CELAC fue constituida.

## 協会の活動案内

### 1. 協会主催

#### 第17回「タンゴ音楽の集い」 開催予告

3月16日(金)に、恒例の「タンゴ音楽の集い」を、JR新橋駅から徒歩3分、当協会事務所隣の光和ビル内ホールで、18:30から開催予定です。

毎回好評の当協会理事飯塚久夫氏の名解説とトークで、本年は「アルゼンチン・タンゴ年代記——タンゴの音楽と踊りの変遷を年代毎に音と映像で楽しむ」をテーマに、その内容を3回に分けて、各年代の比較をしながら、その時代の典型的エッセンスを披露してゆきます。

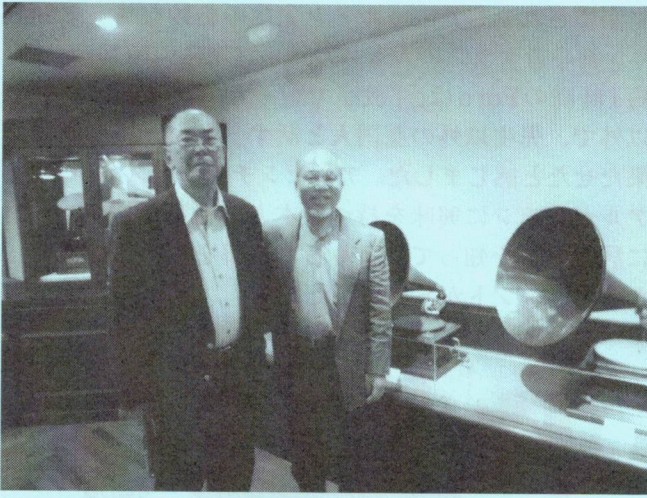
来る3月16日(金)の第17回「タンゴ音楽の集い」は、その第1回目として開催します。ご期待ください。

第2回、第3回目は、6月15日(金)、10月19日(金)にそれぞれ開催を予定しています。

### 2. 平成23年度(平成23年4月～ 平成24年3月)通常総会及び 懇親会

本年も5月下旬に開催予定です。日時、場所が確定次第ご案内します。

前年度は、諸般の事情から懇親会はやむなく中止としましたが、本年は、多数の会員の皆様にご参加願えますように、内容を充実させて開催すべく、鋭意計画中であります。



中野常務理事・飯塚理事



金沢蓄音器館 八日市屋館長

## 4. 11月6日 (日) 第49回アルゼンチン・カップ 競馬 (東京競馬場・重賞 GII)

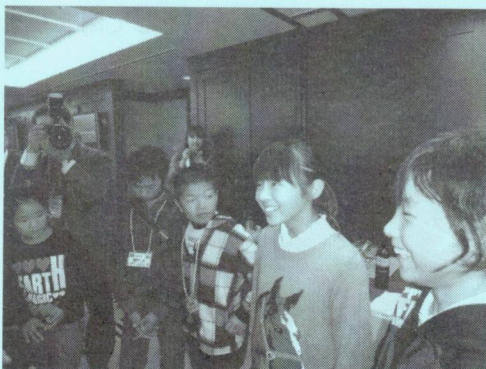
毎年恒例のアルゼンチン共和国杯競馬が、11月6日東京競馬場に於いて、デジャン大使ご夫妻が出席のもと開催された。



デジャン大使ご夫妻、JRA 佐藤氏、鶴岡常務理事夫妻

優勝は、安藤勝己騎手乗馬の「トレイルブレイザー号」であった。

本年は特別に、同日昼に子供ジョッキー選手権が解された。完走後子供ジョッキー全員は、部屋に招待され、大使夫妻、JRA関係者、当協会出席者と歓談、大変ほほえましい、楽しい時間を過ごされた。



子供ジョッキーのみなさん

当協会からは、鶴岡常務理事夫妻、寺本理事が出席した。

又、来年(2012年)は、第50回と言う節目の年であり、新カップの提供、タンゴ音楽の実施等イベント作りの話がJRA・大使館で交わされていた。

## 5. 11月16日 (水) アルゼンチン大使館・当協会 懇談夕食会

昨年11月16日、ラウル・デジャン大使ご夫妻、アレギ公使、リソロ書記官をお招き懇親して夕食会を日比谷富国生命ビル28階にある「聘珍楼」で行ないました。

協会からは、友国会長夫妻・木島理事長夫妻・中曽根元パラグアイ大使ご夫妻、関係理事が参加、総勢24名で行なわれました。

冒頭、友国会長より「懇親会開催が大震災などで遅くなった。震災では、幸い、在日アルゼンチン人の方には、ご不幸がなかった。また、アルゼンチンから救援チームや義援金をお送りいただき御礼を申し上げます。日垂友好関係をさらに増進発展させたい。」旨のご挨拶がありました。



デジャン大使ご夫妻、当協会友国会長夫妻を囲んで

デジャン大使より「日本アルゼンチン協会と一緒に  
なって更なるアルゼンチン発展に努めたい」旨のご挨拶  
がありました。その後、木島理事長の乾杯で夕食会  
がスタート。和気藹々の雰囲気でご歓談されました。

## 6. 11月28日 (月) 大来財団設立・メルコスール 発足20周年記念パーティー

大来財団日本評議委員会 (FO-JAC) は、大来財  
団設立・メルコスール (南米南部共同市場) 発足20周  
年を祝い、記念パーティーを開催した。

会場は、(社)日本外国特派員協会 (有楽町 電気ビ  
ル内) で、メルコスール関係各国大使、外務省関係者、  
IDB関係者、他企業、団体関係者の総勢60名を超える  
出席者が招待されて、盛大なビュッフェ・パーティー  
のもと、メルコスールの発展を祝した。

当協会からは、木島理事長、荒尾常務理事が出席した。

大来財団、メルコスール詳細に関しましては、下記  
ラテンアメリカ協会HPをご覧ください。

<http://www.latin-america.jp/modules/sections/>

## 7. 12月17日 (土) 2011年度スペイン語講座合同 研修・懇親会

スペイン語講座の第二学期の終了時の12月17日  
(土)、4クラス合同の研修会 (Foro) 兼懇親会 (Fiesta)  
を今回初めて開催しました。当日は、受講生10名とカル  
メン先生に加えて、アルゼンチン大使館よりフェデ  
リコ・コスタ氏・セシリア・リソ嬢両書記官にゲスト  
として参加いただき、同伴家族、友人並びに協会側  
関係者、合計22名の出席で行なわれました。



出席者全員で

第1部の「研修会」は、日ごろ鍛えたスペイン語を  
先生以外のアルゼンチン人ゲストと話す力試しの機会  
を提供する意味で、日亜の討論の場「Foro」 (= 対話会)  
として設定。カルメン先生の司会の下で、参加者全員  
の自己紹介から始まり、引き続き、アルゼンチン人ゲ  
ストから受講生へ「アルゼンチン人と日本人の文化の  
違い?」「日本人の好きなスポーツは?」などの質問テー

マが出されました。カルメン先生の絶妙なリードもあ  
り、初心者クラスの人でもスムーズに流暢に回答が出来、  
約1時間のForoは、「教室で習ったスペイン語を教室  
以外で、先生以外の垂国人と話す」という目的を十分  
果たせたと感じました。アルゼンチンのゲストからは、  
アルゼンチンに興味を持つ日本人〔受講生〕がこんな  
に居ることを知って、より日本理解を深める場となっ  
たとのコメントがありました。



Foro 風景

また当協会スペイン語受講生の中からウルグアイの  
モンテビデオに語学留学された方から、初夏の写真入  
り「ウルグアイ便り」が来ましたのでそれを朗読回覧、  
またブエノスアイレス在住の小木曾モニカさんからの  
「春爛漫ハカランダ」のブエノスアイレスの写真も紹  
介され、研修会に花を添える形になりました。

コーヒーで一息いれながら、第2部の懇親会 (Fiesta)  
「かくし芸大会」に移りました。

最初に上級クラスのスペイン語によるオペラならぬ  
語劇「カルメン」の上演、夫々が工夫を凝らした衣装  
や帽子・髭をつけて3幕の寸劇。当協会事務局阿部さ  
んの闘牛まで飛び出しやんやの喝采を受けました。当  
意即妙の即興セリフの連発で、他のクラスの受講生は  
そのスペイン語駆使力に驚き感心し、刺激をたくさん  
受けた模様です。次は中級クラスの3名からなる器楽  
(フルート・バイオリン・ギター) 演奏で「クンパルシー  
タ」から始まり、「オブリビオン」「エル・ディア・ケ  
メ・キエラ」のタンゴ演奏。あまりの見事さにあっけ  
に取られ、「大使館での催しがある時は出演してほしい」  
などの声も入ったようです。個性を最大に発揮した  
催しとなりました。

最後にこのバンド伴奏で「きよしこのよる」をアルゼ  
ンチン人が日本語で、「Noche de Paz」というスペイン  
語歌詞を日本人が、全員で大合唱をして閉会しました。



出席者有志の演奏

和やかな雰囲気の中に勉強もし、余興を楽しみ、お茶でおしゃべりをする。皆さん満足して帰られたのではないかと思います。後で先生に「うちの受講生のスペイン語やパフォーマンスは外部の方に見てもらって魅力あるものか」を訊きましたら「vale la pena de ver」一見の価値あるものとの講評を頂きました。皆さん自信もって来年もがんばってより盛大に楽しくし

ましよう。また来学期も引続き受講されますよう、そしてご友人でスペイン語興味ある方を紹介くださるようこの紙上でも重ねて会員の皆様をお願い申し上げます。

(文責：実用スペイン語講習会担当理事 藤村 登)

## 会員の活動報告 その他関連ニュース

### 1. 当協会正会員 角田勝彦氏が 秋の叙勲で授賞

元ドミニカ大使及びウルグアイ大使で、現在日本ウルグアイ協会会長の当協会正会員角田勝彦氏が秋の叙勲で、瑞宝中綬章を授章されました。

謹んでお慶び申し上げます。

### 2. 当協会理事 飯塚久夫氏が 東京工業大学副学長にご就任

当協会主催「タンゴ音楽の集い」で好評の名解説とトークでご案内の多彩なご趣味をお持ちの飯塚久夫氏が、東京工業大学の副学長に就任されました。

益々のご活躍をお祈り申し上げます。

### 3. 10月19日(水) 当協会会員 香坂 優氏がコンサート開催

香坂氏主催ゆうアルゼンチンタンゴアカデミーの生徒の成果発表とともに同氏の歌、タンゴを披露するコンサートが、大田区民ホールで開かれ、開場一杯の観客が集まった。

### 4. 12月2日 当協会 小原 みなみ氏 25周年記念 コンサート

デビュー25周年、その集大成として、その記念コンサートが神奈川県民ホールで開かれた。日本とアルゼンチンがタンゴによって強い絆で結ばれている思いを込めて、“Abrazo de Tango”をテーマに熱演されました。

現在人気のタンゴ四重奏団、タンゴ・ダンス、更に永きに亘って同氏への指導者、協力者であるアルゼンチンのマエストロ ホルヘ・ドラゴネシからの祝詞と映像でステージが飾られ、更に同氏指導のもと一昨年プロ・タンゴ歌手としてデビューした当協会会員の関 明子氏が友情出演で歌い、中身の濃いステージで、多数の観客は満足された。

### 5. 新駐アルゼンチン日本大使が 決まる

1月17日の外務省の発表によると、外務省中南米局長 水上正史氏が在アルゼンチン日本国大使に任命されました。

中南米局長の後任には、官房審議官兼国際協力局審議官であった山田彰氏が就任されました。

### 6. FANA(在亜日系団体連合会) の役員改選

2012年度(2011年9月～2012年8月)の新役員が下記の通りであった旨、FANAより連絡ありました。

会長： 米須 清文  
副会長： 生垣 彬  
幹事： 新沢 ミゲル  
副幹事： 柴崎 登之  
会計： 兼城 静子  
副会計： 今井 ダニエル



## 協会ホームページ及び E-メールアドレスの変更

ホームページの操作性並びに内容の情報性の向上のため、又、協会事務所内パソコンの操作性向上の為、光回線に切り替えると共に、これに併せてホームページの内容の一部変更並びにメールアドレスの変更をしました。

パソコンのプロバイダーの切り替え・移行（ニフティーからビッグロブ）作業も完了して、去る**1月17日から**新方式で稼働開始しております。

変更内容は次のとおりです。

### 1. ホームページ (URL:<http://www.argentina.jp>)

URLは変更なく、旧来と同じです。

所定のパスワードの入力は不要となり、誰でも自由にホームページ内情報にアクセス出来るようになりましたので、ご活用ください。

### 2. E-mailアドレス

[nippon@argentina.jp](mailto:nippon@argentina.jp) が、新しいアドレスです。

1月17日以降、一定期間は旧アドレスで送信されても、自動的に新アドレスにつながるようになっておりますが、万一ご支障が生じた場合は、協会事務所宛お電話下さい。

電話：03-3501-4684 担当：阿部

## 住所変更届けのお願い

ご住所が変わりました際は、早めに新住所を協会事務所にご連絡ください。

電話：03-3501-4684

FAX: 03-3595-3932

E-mail: [nippon@argentina.jp](mailto:nippon@argentina.jp)

## 平成23年度 年会費納入のお願い

「本年度（平成23年4月1日～平成24年3月31日迄）の年会費がまだ未納になっている方が一部お見受けします。お支払いを済まして頂きますようお願い申し上げます。

個人正会員： 1万円

個人賛助会員： 5千円

## 編集長よりの御礼

昨年は、東日本大震災をはじめとし国内はもとより海外に於きましても厳しい一年でございました。本年は、'坂の上の雲'に向かって前進、早期に復興回復が進みますことを祈念しております。

フロント・ページの写真は、ブエノスアイレス在住の小木曾モニカさんから届きました昨年11月撮影の満開のハカランダです。その他にも最近のブエノスアイレス市内風景を紹介して頂いておりますので、折に触れ、その写真を皆様にご紹介してゆきたいと思っています。小木曾さんのいつもながらのご厚意に対し厚くお礼申し上げます。

執筆、原稿につきましては、木村敏夫様（キヤノンUSA）、島崎長次郎様（日本タンゴアカデミー会長）並びに勝田富雄様（当協会理事）にご協力頂きました。

スペイン語のサマリー（Resumen en castellano）は、イレーネ賀集さんに作成して頂きました。

この場をおかりしまして、皆様のご協力に対し、厚く御礼申し上げます。

本会報のデザイン、記事の無断転用はお断りします。

## 日本アルゼンチン協会会報 第59号 2012年1月27日発行

発行人 木島 輝夫（当協会副会長兼理事長）

編集長 加藤 勝巳（当協会常務理事）

編集発行 社団法人 日本アルゼンチン協会

〒105-0004 東京都港区新橋 1-17-1

電話：03-3501-4684

FAX：03-3595-3932

E-mail： [nippon@argentina.jp](mailto:nippon@argentina.jp)

URL： <http://www.argentina.jp>

印刷 株式会社 アイデア・インスティテュート